

地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラム

みなみおおさまカフェ &

「事後学習」

報告

2019/02/12

みなみおおさまカフェ&「事後学習」

■午前:「みなみおおさまカフェ」

2月12日(火)、南大沢キャンパス91年館多目的ホールにて、「みなみおおさまカフェ」が行われ、本プログラムから3名の学生がボランティアとして参加しました。

いつものカフェタイムに加え、今回は卒業を控えた学生による卒業論文発表と本プログラムの参加学生による挨拶がありました。

プログラムのスケジュール上、本プログラムの参 加学生にとっては、今回が今年度最後の活動 でした。最後に時間をいただき、学生が一人ず つ前に出てお話しさせていただいた際には、「普 段は話す機会のない世代の方とお話しすること ができて楽しかった」「自分が知らないことを教 えてもらった」等、地域の方への感謝の言葉が 多くありました。緊張しながらテーブルに座り、 何を話せばいいか悩んでいる学生に対して、地 域の方々がいつも優しく丁寧に話を聞いてくだ さったり、人生経験を踏まえた様々なお話をし てくださったりしました。その優しさや貴重なお話 が学生一人ひとりの心や記憶に残っているよう です。「来年も続けてね!」と地域の方に声を かけられた学生たちは、とても嬉しそうな表情を していました。





参加者に挨拶をするプログラム参加学生の様子

■午後:「事後学習」

午後は、そのまま91年館に残り、「事後学習」を実施しました。

午前のみなみおおさまカフェの活動で、今年度の『地域ボランティアプログラム』みなみおおさまカフェプログラム』の活動がすべて終了となりました。この「事後学習」では、これまでの活動を振り返り、他のメンバーと共有することで、自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えたりすることで、活動を学びと成長につなげることをねらいとしています。

本プログラムのアドバイザーである和気純子 先生(人文社会学部人間社会学科社会福祉学教室教授)や連携団体である「高齢者 あんしん相談センター南大沢」の森島早苗センター長にもお越しいただき、学生の振り返りにご参加いただきました。

・「ココロ (キモチ) 」の振り返り

「ココロ(キモチ)」の振り返りとして、感情面の振り返りを行いました。最初に、活動の中で"最も感情が動いた場面"を各自で考え、その後、グループで共有しました。学生の話から、「2回目に会った時に、地域の方が自分を覚えてくださっていた」「戦争のことを教えていただいた時があり、その話を通して改めて当たり前の大切さや感謝の気持ちの大切さを実感した」「様々な方々と出会い、自分がこれからどのように生きていきたいかについて考えることができた」等、様々な場面で学生がポジティブな感情になっていたということが分かりました。

一方で、「お互いの関係性の中で、どこまで話を掘り下げて良いか分からなかった」「(参加者の方々との)共通の話題を見つけるのが難しかった」等、うまくいかなかったり、困ったりした場面でネガティブな感情になったようです。ポジティブ・ネガティブといったそれぞれの感情から振りに及ることで、一つびとつの活動に対する

から振り返ることで、一つひとつの活動に対する 自分の気持ちと向き合うことができました。

・「アタマ」の振り返り

次に、「アタマ」の振り返りとして、今回取り組んだボランティア活動の効果・意義について各自で考え、その後、グループで共有しました。 さらに、そこで挙げられた効果・意義を①ボランティア自身、②課題の当事者・活動の対象、③活動する組織、④地域・社会、といった対象別に分けて可視化しました。

【①:ボランティア自身にとって】

- おしゃべりするのが楽しい。
- ・自分とは異なる世代の方々が何を考えている のかを知ることができる。
- ・人生相談ができる。
- ・学生が何をしているのか、具体的に知ってもらうきっかけになる。

【②:活動の対象(地域住民の方々)に

とって】

- (カフェが) 1つの楽しみになる。
- ・カフェで友達ができる。
- ・気にかけてくれる人がいることを実感できる。
- ・孤立しがちな高齢者が目的をもって外出することができる。
- 【③:活動する組織(連携団体や地域福祉の専門職の方々)にとって】
- ・学生と一緒に活動をすることで新たな視点に 気付いたり、アイディアが出たりする等、お互い に新鮮さがある。
- ・「学生目線」での活動(ジャグリングやダンス 等のサークル活動披露)がある。
- ・既存のサービスを利用しない方の様子を キャッチするできる。
- ・学生に対してだからこそ話してくれる話を拾う ことができる。
- 【④:地域・社会にとって】
- ・学生への興味をもってもらえる。
- ・開発されてできた地域に移り住んだ新しい住 民の孤立を防げる。
- ・地域住民が自分たちの趣味活動(歌や演奏、ダンス、詩吟等)を発表できる。
- ・学生、地域住民、民生児童委員、専門職、 市職員、大学スタッフが顔の見える関係をつく ることができる。

・プログラムの修了

今年度の活動は、これで終了になります。最後に、プログラムを修了した学生一人ひとりに 修了証をお渡ししました。

今回初めてプログラムに参加した学生の中で、希望する学生は、2年目は「サポーター」として、次年度も継続して活動することができます。ここで学んだことを一人ひとりが様々な場所で生かしていただくことを期待しています。



和気先生から修了証を受け取る学生の様子